

日本の高齢者および中高年層にとってのロングステイの効果
—台湾の場合を事例として—

劉 南宏 小松 正子 佐藤 幹男

キーワード：ロングステイ ライフスタイル 海外滞在

Effect of long-stays in foreign countries on elderly and middle age Japanese
—Taiwan case study—

Nan-hung Liu Shoko Komatsu Mikio Satoh

Abstract

Japan is already at the "Super-aged society" stage. Senior citizens feel uneasiness about their pensions, medical treatments, and welfare, etc. However, they wish to live well until death. Naturally, there are various lifestyles which one could call "living well". The author focused on the fact that in an increasing number of cases, Japanese retired senior citizens are staying abroad for long periods in foreign countries. Senior citizens think that "Long-stay" is one of the lifestyles for living well. Senior citizens are attracted to something about long-stay, This has the potential for the future. I investigated the current state of affairs through interviews.

In this research, Japanese who stayed for more than two weeks or ten times in Taiwan were targeted (male:9, female:3, age:38-80years old, lived in Taiwan:3, retired:3, business:6). In this research, there were three effects of the long-stay: One effect was that it caused them to consider their lifestyles and philosophies, another concerned self-actualization and finally, it had the effect of reducing mental stress in daily life.

Key words : Long-stay, Lifestyle, staying-overseas

I はじめに

1、日本の高齢者をとりまく環境

(1) 高齢化問題

2007年、日本の老年人口割合は20%を超え、世界保健機関の定義する「超高齢社会」に突入した。日本における高齢化は、同様に高齢化が進んでいる先進諸国の中でも群を抜いており、2025年度には2.17人で高齢者一人を支えなければならないことが予測されており、国民の不安が増大している。

(2) 団塊世代の一斉退職

定年を60歳とすれば、2007~2009年になると、団塊の世代の中の280万人以上が定年退職期を迎えると予測されている。団塊世代の一斉退職は、年金給付の急激な増大が見込まれるため、社会保障制度への深刻な影響が懸念されているほか、さまざまな面で影響を与えると考えられる。

(3) 年金受領額の減少

日本の年金制度は少子高齢化などの影響により、深刻な問題に直面している。今後さらに年金制度が改革され、受給額が減ることも考えなければならない。収入と支出のバランスが取れない状況の中で、日本での生活は厳しくなっていくことが予想される。

2、日本における余暇活動について

(1) 最近の余暇活動の変化

近年、多くの人々は余暇の場に生きがいを得ようと考え始めている。こうした意識が高まってくると、当然のことながら人々の余暇活動は変化してくる。

近年は、多くの人々が、主体的な余暇を求めて活動を始めている。余暇を有効に活用するだけでなく、生きがいを高める活動として考え始めている。

(2) 海外旅行における変化

もともと日本人は旅行好きな民族といわれ、経済の成長に伴って、海外旅行に行く人数も増えてきた。海外旅行経験者が増加するなかで、海外でより長期間滞在したいと考える人も増えてきた。リフレッシュ休暇やボーナス休暇などの名称を付けたものもあり、昔より期間の長い連続休暇も取りやすくなった。国際化により情報を入手しやすくなり、海外渡航経験の蓄積もあり、より長く、より個性的な海外旅行や海外滞在が志向されるようになってきている。また観光だけでなく、異文化と直接交流したり、現地の生活に溶け込むような体験を希望する人も増えてきた。

3 ロングステイ

(1) ロングステイの概念

「ロングステイ」という言葉は、ロングステイ財団によって作られた言葉である。同財団によれば、ロングステイとは「生活の主たる源泉を日本に置きながら、海外の一箇所に比較的長く滞在し、その国の文化や生活に触れ、現地社会への貢献等を通じて国際親善に寄与する海外滞在型余暇を総称したもの」と定義されている。

その基本的な特徴は以下の5点である。

- ①比較的長期にわたる滞在である。
- ②海外に「居住施設」を保有または賃借する。
- ③「余暇」を目的とする。
- ④「旅」よりも「生活」を目指す。
- ⑤生活資金の源泉は日本にある。

(2) 日本におけるロングステイについて

日本は、1970年に「高齢化社会」に突入し、時間的、経済的に余裕のある世代が増えてきている。さらに、平均寿命の向上により、利用できる時間が伸びたため、高齢者たちは自分の老後の生活計画を立てるようになってきている。海外に長期滞在し、セカンド・ライフを始めようというロングステイの形も現れた。1980年代以降には、日本の高齢者のなかに、退職したあとで海外のロングステイをし始め、憧れの海外でさらにゆとりのある生活を送る人も出てきた。「学習派」、「エンジョイ派」、「渡り鳥派」などもある。

1986年、老後の海外生活について、当時の通商産業省主導で「シルバー・コロンビア計画」が発表された。それは、高齢者や定年退職者に呼びかけ、気候がよく物価の安い海外への移住を推進しようと計画したものであった。しかし、結果的に、滞在先の対象とされた国々で予想外の反対の声があがり、また移住者からも、言葉の壁の問題や、最期は日本で迎えたいといった意見も出され、結局、頓挫してしまった経緯がある。

「シルバー・コロンビア計画」が不評で沙汰止みになった後、海外で一定期間滞在し、現地の人と交流したりして生きがいを得たいという人がだんだん増えていく。そうしたなかで、1992年、ロングステイ財団が通商産業省の認可を受けて設立された。

(3) 近年のロングステイヤーの人数の推移

ロングステイ財団の調査によれば、近年、海外渡航者数は多発テロやSARS、イラク戦争などの影響を受けて、ほぼ停滞の状態であるが、逆に、ロングステイヤーの人数は順調に増えている。

(4) ロングステイの内容の変化

当初は、ニュージーランド、オーストラリア、ハワイ

などの英語圏が人気だったが、最近では、東南アジア諸国への関心が高まってきている。

ロングステイヤーについては、以前は、海外駐在経験者、芸術家、学術家など特定の経歴の人々に限られる傾向があり、その目的においても限定されていた。しかし、近年では、定年退職したシニア夫婦をはじめ、子ども連れの家族、若年層など、様々なタイプの人々がロングステイに参加する傾向にある。

ロングステイの目的については、「自然の中でのんびりしたい」、「その土地の生活や習慣にふれたい」、「国際親善(異文化交流)」、「避暑避寒」、「年金の有効活用」、「周辺観光」、「歴史探索」、そして「健康上の理由」という回答が多い。また、滞在スタイルは、大きく①長期滞在査証を取得する半永住タイプ、②毎年一定期間、同一地域に、定期的に繰り返し実施するリピートタイプ、③滞在地を固定せず、気ままに滞在するフリータイプ、など三つのタイプに分けられる。今後は、ロングステイヤーの異文化への適応能力が問題になると考えられている。

II 研究の目的と方法

1. 研究の目的

日本は、すでに「超高齢社会」段階に入っている。そのなかで生活する高齢者は、年金、医療、福祉等の不安を抱えつつも、なお、最期を迎えるまで、豊かに生きたいと願っている。豊かに生きるようとするなかで、ライフスタイルも当然、多様になっていくであろう。そうした中で、筆者は、日本では、近年、リタイヤした高齢者たちが海外で長期滞在をするケースが増えているという事実に着目するようになった。つまり、高齢者が豊かに生きるための生活様式の一つとしてロングステイを考えるようになってきているのではないかと。そして、そこには、高齢者をひきつける魅力と可能性があるのではないかと。同時に、そこに問題はないのか。検討に値する課題であろう。

本稿では、以上のような問題意識に立って、ロングステイヤーのライフスタイル、ロングステイにおける活動内容、滞在スタイル、さらには、それらと年齢、性別、職業、滞在類型(台湾在住者、リタイヤおよびビジネス関係者)などの違いとの関係などについて明らかにするとともに、高齢者の「生き方」、「生きがい」とロングステイの関係、高齢者にとってのロングステイの効用、といった点について考察することを旨とした。

研究の方法は、文献研究を中心としながらも、事例調査を加えた。事例調査は、筆者の出身地である台湾に滞在している方、及び台湾に滞在したことがある方を対象に、電話によるインタビュー調査を実施した。日本人を受け入れる側の視点もあわせて考察できると考えたから

である。

2. 研究の方法

本研究では、文献研究及びインタビュー調査により、高齢者のライフスタイルとロングステイの関わりを検討した。具体的な内容は以下のとおり。

- (1) 先行研究(参考文献を含む)の収集と検討
- (2) 統計資料の収集と検討
- (3) 事例の検討

1) インタビュー調査

①調査期間：2007. 10. 16～2008. 1. 10

②調査対象：日本国籍で、台湾に滞在している人もしくは滞在したことがある人。ロングステイの本来の定義からすれば、2週間以上の滞在が条件の一つである。本研究では、台湾に2週間以上もしくは10回以上滞在したことのある人を研究対象者に設定した。

③実施要領：電話で調査対象から情報を聞き取り、記録した。補助として、調査対象者の同意を得た上で録音をした。

④調査内容：1) 調査対象の基本資料、2) 海外滞在の経験について、3) 台湾と日本におけるライフスタイルの変化、4) 台湾の生活環境及び社会事情に関する印象、5) 体験が後の生活、人生観に与えた影響

III 調査結果

表4-1 調査対象一

	性別	年齢	住所	職業	滞在期間
① (A)	男	76歳	神奈川県	リタイヤ	2週間
② (B)	女	80歳	神奈川県	リタイヤ	12日間
③ (C)	女	79歳	神奈川県	リタイヤ	10日間
④ (D)	男	56歳	東京都	会社員	半年
⑤ (E)	男	43歳	三重県	会社員	2週間
⑥ (F)	女	38歳	東京都	会社員	2週間
⑦ (G)	男	66歳	東京都	会社員	1ヶ月
⑧ (H)	男	66歳	台湾台東市	日本料理店経営	7年
⑨ (I)	男	44歳	台湾台東市	宣教師	20年
⑩ (J)	男	49歳	茨城県	会社員	1ヶ月
⑪ (K)	男	46歳	名古屋市	会社員	2週間
⑫ (L)	男	51歳	台湾台東市	宣教師	9年

①Aさん(76歳) 神奈川県在住 リタイヤ

高校教員を退職する前は台湾に渡航した経験がなかった。しかし、大学の非常勤講師をしていた時、学生から台湾の少年工について質問されたことがあり、退職後、

少年工の調査のために台湾に行くようになった。台湾には、いつも二週間ぐらいは滞在しており、今まで 14 回行ったことがある。中国にも行ったことがあるが、一回だけである。A さんは調査のため、多くの台湾人と交流しており、台湾人は素朴で人情に厚いなどの国民性を体感した。「台湾にはたくさんの日本料理店ができていますが、現地の食事を理解するため、日本食ではなく、できるだけ中華料理を食べるようにしている」そうである。特に、台湾の屋台に対して興味を持っている。台湾の中華料理については良くも悪くもない、納得できている。しかし、小さな店や屋台などの衛生状態については不安を持っている。また、A さんは台湾の歴史に興味があるので、滞在中は各地方の史跡を回っており、周辺旅行もしている。台湾の生活については、日本とあまり変わらないと思っており、台湾の生活にも満足しているが、衛生面の問題ではやはり日本のほうが住みやすいと思っている。また、経済面の問題がなければ、今後も台湾でより長い期間の滞在をしようと思っている。台湾人との交流を深める(心の交流)ためには、中国語と台湾語の勉強が必要と思っている。

台湾生活の体験は、A さんの生活や人生観にも色んな影響を与えている。たとえば、台湾の同年齢の人は考え深く、いろいろ配慮しているとし、正直な生き方に共鳴している。しかし、一部の人は付き合い方が前近代的で、アポイントメントなしに訪問する人もいるといった指摘があった。

②Bさん(80歳) 神奈川県在住 リタイヤ

台湾には 16 回行った。ただし、60 歳以降である。B さんは、戦時中、高座(こうざ)海軍工廠に女子挺身隊として働いていたが、その当時、約 8,400 名の台湾少年工が来ていた。平成 5 年、1,300 名の台湾少年工だった人たちが、台湾に帰ってから 50 年ということで、日本を訪問した。そのときに声がかかって、一緒に歓迎会を行い、それが縁となって、その後、毎年台湾で行っている連誼大会(2007 に 20 回目)に招待され、台湾に行くようになった。台湾で最も長い滞在期間は約 12 日間、滞在中はホテルに泊まることが多いが、たまに知り合いの家に泊まることもある。どこも綺麗で便利になっているので、生活しやすいと思うが、長くいると食事関係で日本食が恋しくなる。台湾の食事は美味しいが、油が多く使われているので気になっている。田舎に行く場合は衛生面が気になるが、さほど問題は感じていない。全体的には台湾について良い印象を持っている。特に、お付き合いしている人たちは日本を懐かしく思う方が多いので、親しくしてくれる。交通手段としては、車で移動することが多いので、不便を感じたことがない。台湾人は日本

人に対してとても親切で尊敬しており、親日的な人が多いと思っている。また、台湾人はのんびりと暮らしており、おおらかな人が多い。逆に、日本人の生活は忙しくて仕事に追われている感じがしている。台湾人の生活スタイルがいいと思うが、日本に戻ってきたらまた忙しくなるので仕方がない。しかし、現在の生活では大勢の人と交流できるので、やっぱり楽しいと思う。台湾は住みやすいと思うが、気候を考えると夏は日本で、冬は台湾で過ごすといった滞在スタイルがいいと思う。今後、台湾で長期滞在する場合は、食事については工夫する必要があるが、台湾と日本の生活環境は大きな違いがないと思っている。これからも台湾に行く予定があるが、学校や仕事などの関係で長期の滞在は難しい。

③Cさん(79歳) 神奈川県在住 リタイヤ

C さんは毎年台湾に行っており、今までは計 10 回ぐらいいである。B さんと同様、戦時中、高座海軍工廠でトレース(原図の上に薄紙をあてて数書きしをすること)の仕事をしていた。1993 年から台湾を訪問するようになった。台湾以外は、スイス、ニュージーランド、ニューカレドニア、フランス、アメリカや中国などに行ったことがある。最長滞在期間は約 10 日間、台湾に行った回数が一番多い。台北に滞在したことが多く、その周辺を観光していた。台湾の苗栗(みょうれき)、宜蘭(ぎらん)でホームステイしたこともある。滞在したところは田舎なので、環境は静かで、リラックスできる。また、台湾の男性は優しいと思っている。交通事情に関しては、バイクが多いことについては聞いていたが、実際に大気汚染は感じなかった。滞在中はよく台湾の料理を食べていた。種類が多くて味も悪くないので、食事については大体満足している。台湾料理は脂っこいが、別に悪くはないと思っている。逆に、美味しいので食べ過ぎることが気になっている。台湾ではたくさんの人と交流してきたが、台湾人は心が広くて豊かであり、年寄りの人は日本の先生に対して感謝の気持ちをいつまでも持っていると感じている。

台湾では知り合い以外の人との交流が殆どだが、皆と仲良くしている。台湾の人は時間がたっぷりあるように感じるが、日本人はいつも忙しそうだ。気候のせいだけでなく、国民性が何かの原因があるかなと思っている。そのことで自分の生活もゆっくりにしなければと反省している。現在は色んなグループ(俳句の会、ボランティア、勉強会など)に入っているので、生活が忙しくなっている。また、夫の目が不自由なので、台湾により長い期間の滞在が難しい。もし、台湾に滞在する機会があれば、行く前に言葉の勉強が必要だと考えている。

④Dさん(56歳) 東京都在住 会社員

仕事の関係で台湾に約20回滞在したことがある。最長期間は約半年間である。台湾以外にもイタリア、アメリカ、シンガポール、韓国や中国に行ったことがある。台湾は生活しやすいと思うが、オートバイが多く、空気の質が悪い。ほかの国に比べれば、台湾の治安はいいと思う。気候的に、冬はすみやすいが、夏は住みにくい。滞在中はマンションを借りて住んでいたが、食事は殆ど外食であった。和食も中華食も食べるが、衛生面の心配があるので、屋台では殆ど食べていない。日本では二、三ヶ月に一回の頻度でゴルフをやっているが、台湾では週一回ぐらいやっていた。日本に比べると料金はかなり安いので、気軽にやることができる。台湾の博物館や美術館にも行っていた。台湾人との交流については、同じ東洋人なので、楽しい思い出をいっぱい残したという。しかし、会社関係以外の人との交流は少なかった。日本に住みなれているので、日本のほうが住みやすいと思っている。退職したら、暑い季節を外して二月か三月に台湾に滞在したいと思っている。台湾人は夜遅くまで活動しており、開放的な気分になれることが心に残っている。日本人はいつもせかせかしている傾向があり、余裕がないように感じている。台湾人はやるときにはやるが、休みのときはゆっくり休み、遊びでリラックスする生活を送っているという。健康に自信があれば、定年になってから第二の仕事を探したいと思っている。健康のために、きつくないレベルの仕事をやりたいと考えている。

⑤Eさん(43歳) 三重県在住 会社員

今まで台湾には10回ぐらい行ったことがある。最長滞在期間は二週間である。会社の同僚と一緒に行ったこともあるが、ほとんどは一人である。台湾以外にも、アメリカ、イギリス、韓国、中国に渡航したことがあり、アメリカには三週間ぐらい滞在した。台湾の気候は日本に近いし、町も大きな違いがなく、日本に似ていると思う。台湾人は日本のことに興味があるらしく、いろんなことを聞かれた。日本人に対してはとてもフレンドリー(友好的)で、親日的である。食べ物についても良い印象がある。しかし、町の中、特に新竹(しんちく)のダウンタウン(繁華街)は、外を歩くと車が多い。信号はあるが、道路を渡るときは危ないと思う。夏にも冬にも台湾に行ったことがある。夏はちょっと暑い、冬はそんなに寒くないので、日本より過ごしやすいと思う。台湾での食事は中華食がメインで、味は口に合うが、特定のスパイスは苦手である。休みのときは知り合いと一緒に台北に行って、故宮博物館や桃園の「小人国」にいった。台湾人との交流は仕事関係の人だけで、皆、結構親切してくれたのでいい印象が残っている。現在も台湾の

知り合いと付き合いをしている。台湾に行く前は、日本とは全然違う国だと思っていた。しかし、日本の文化と近いところが多いので、今はそういう異国感がない。一週間か二週間滞在したら、日本の和食を食べたくなる。生活の面では特に不便は感じていなかったが、町の道路にごみがよく落ちている。環境、設備、便利さなどを考えれば、やはり日本が住みやすいと思う。台湾では、日本語が通じる年寄りがいるが、普通の人は日本語も英語も通じないことが多いので、より長く滞在する場合は言葉の勉強が大事だと思う。現在は、退職した後はアメリカに滞在したいと思っている。というのも、以前滞在したところは気候が良く、夏はそんなに暑くならないし、冬もそれほど寒くなくて非常に住みやすいからである。ビルは少なく、人口も少なくていいと思う。外国での滞在は自分の生活と人生観に影響がある。たとえば、色んな情報、ニュースを見るときには外国人の立場からも考えるようになった。また、生活の面については、台湾人は日本人よりまじめに色んなことを学ぼうとしている。仕事のスタイルは日本人と違って、アメリカ人に近いと思う。日本の会社では、ある程度チームで仕事をすることが多いが、アメリカでは一人で解決することが多いからである。

⑥Fさん(38歳) 東京都在住 会社員

中国の上海出身で、日本人と結婚して会社に勤めている。今までは仕事の関係で5回台湾に行ったことがある。平均滞在期間は2週間～1ヶ月である。台湾では台北、新竹、台南、高雄に滞在していた。滞在中はホテルに泊まっていた。台湾は日本より物価が安い、屋台が多い、早点屋(温かい朝食を売る店)があり便利なので、生活し易いと思う。また、夜遅くまで店が開いているので、買い物は便利である。ちなみに、台湾では日本文化が溢れていることに驚いた。店に行くときやタクシーに乗るとき、店員と運転手は日本語をしゃべれる人が少なくない。特に年寄りには日本語をしゃべれる人が多い。よく観察すると、台湾はかなり日本の影響を受けている。以前は台湾と香港は似ていると思ったが、実際に行ってみると、台湾の町は香港より素朴で気に入った。台湾の知り合いとの交流が楽しくて、知り合い以外の人との交流もスムーズにしている。台湾にいる間は時間的な余裕が多くて、のんびりしてマイペースで生活できる。日本は緑化運動などが台湾より進んでいるので、生活環境の質からみれば、日本のほうが住みやすいと思う。将来は、台湾に滞在しようとは思っていない。イタリアに滞在するつもりである。歴史に興味があるので、ロングステイをする場合は滞在国の歴史を勉強しておきたいと思う。外国での滞在経験は自分の生活には影響がないと考えている。

⑦Gさん(66歳) 東京都在住 会社員

仕事で、台湾に1ヶ月間滞在したことがある。エンジニアの仕事をしており、会議で色々な国に行ってきた。台湾では台北と新竹に滞在し、台湾は生活しやすいと思う。台湾人は親日的でとても良い印象を持っている。1月なので気候もいいし、食べ物も美味しい。台北と新竹のインフラストラクチャーが非常に良かった。生活面では特に不便は感じなかった。交通事情は日本と同じぐらいと思っているが、日本のほうは交通機関が発達している。台湾では外食することが多く、つとめて台湾食を食べるようにしていた。台湾食については美味しいと思う。脂っこいとは思っていない。レジャー活動は特にしていない。台湾人は仕事に対しては非常に真面目によく勉強している。仕事関係以外の人との交流がなかったのが残念。台湾の生活を体験して、色々な刺激(カルチャー・ギャップ)を受けた。将来は台湾に行く機会があれば、予め言葉の勉強をしておいたほうが良いと思う。ちなみに、台湾で一番高い山に登りたいと考えている。しかし、退職後、外国に長期滞在する予定はない。日本の冬は寒いので、毎年、妻と一緒にスキーに行っている。楽しい。

⑧Hさん(66歳) 台湾台東市在住 日本料理店経営

2000年に結婚後、台湾にきた。今まで韓国、フィリピン、香港、マカオ、ハワイに渡航したことがあり、台湾では台東市以外に台北市に数ヶ月間滞在したことがある。台湾の人は素朴だが、マナーが良くないと感じている。治安や医療などは日本とほぼ同じだが、交通マナーが悪い(自己主義)。また、無駄なことがいっぱいある。特に台湾の選挙は昔の日本と同じで、町中にポスターがいっぱい貼られ宣伝車が回っている。日本料理店を経営しているので、基本的に自分で作ることが多いが、たまにレストランに行く。台湾料理は美味しいが、見た目はあまり良くない。日本料理は見て綺麗で、食べても美味しいので、根本的な違いがある。月に3回ぐらいの頻度で台東の近くにある知本(ちもと)温泉に行っており、たまに旅行にも行っている。店に来るお客さんが多いので、台湾人との交流も多い。中国語を話せないで、外での交流は少ない。最初の一年は色々なことで驚くことが多かった。身に危険を感じたことはないが、万引きのような小さな事件は多い。とはいえ、全体的に住みやすく、昔の日本に戻ったような懐かしい感じがする。以前は韓国やフィリピンなどの国に五十回ぐらい行ったことがあるが、台湾、特に台東の人は日本人に対する親しみが一番強いように感じている。個人的に付き合うとものすごく素朴で、昔の日本の田舎の人みたいである。しかし、身近な人に対してはとても優しいが、それ以外は自分のことしか考えないようにも思える。全体的にみて、日本は

嫌なこともあるが、すべての事で安心なので住みやすい。今後は、いろんな面でコミュニケーションをとるために、中国語を少し勉強したいと思っている。日本にいるときは色々な商売で人との付き合いが嫌になるほど多かったが、台湾に来てからそういう煩わしさがなくなっている。

⑨Iさん(44歳) 台湾台東市在住 宣教師

1988年に、仕事で台東県の池上に派遣され、そこで10年間働いていた。会社の事務所が撤収した後、当地の生活が気に入ったので、台湾に残ることにした。仕事や観光のため、世界中を回っており、豊富な海外渡航経験がある。台湾は生活しやすいと思っている。

《良い印象》i、人情が厚い。悪い人もいるが、良い人がはるかに多い。ii、日本人に対して好意的で、フレンドリーに受け入れてくれることが多い。iii、食べ物の種類が多い。iv、物価が安い。

《悪い印象》i、嘘つきが多い。ii、泥棒が多く、自動車に盗まれた経験がある。iii、政治の話ができない。政治の話題に対しては激しい人が多いので、そういう場面になったら嫌な感じがする。

台湾での食事は外食が多く、現地の料理を中心にしていく。台湾の料理は脂っこいと思っはいるが、まあまあ納得できる。現在は日本語を教えているので、よく出かけている。休みの日は車で子どもを連れてぶらぶらしている。以前はよく国内旅行をしていたが、子どもが出来てから回数が減ってきた。しかし、「国民旅行カード」を持っているので、時間のあるときはなるべく旅行に行くようにしている。人間関係については、自分に合った人としか交流しないので、ほとんどの人は良い人である。性格的には良い人は多いが、作業をするときに効率が良くない。嘘つきの心配があるので、知り合い以外の人と交流するときにはまず相手を確認する。しかし、付き合いえばすぐ分かるので、台湾人との交流は全体的に見ると楽しいと思う。20年前の池上は田舎で、何もなかった。大阪出身なので、いきなりそういう環境に入り、ちょっと驚いた。現在はインフラもだんだん整備されてきたので、日本とあまり変わらないと思う。生活面において大きな変化の一つはテレビから離れたことである。以前は毎日好きな番組を見ていたが、台湾に来たら中国語が分からなくて、テレビから解放された気がする。テレビを見る時間が減ったので、外に出て人と交流する機会が増えた。そのお陰で中国語もだんだん上手になっている。不満はいろいろあるが、全体的には住みやすいと思う。物質の面では日本が遥かに先進しているが、人間関係など色々な面から見れば台湾のほうが生活しやすい。また、日本のほうはストレスが多く、特に仕事の面ではたまりやすい。今後も台湾に滞在しようと思っているが、台湾

の政治はとても混乱していると思う。子どもの教育のためにも、もっと安定性のある社会環境になって欲しい。社会との関わりを重視しており、現地の住民としてがんばっている。ちなみに、自分の考え方も大きく変わった。たとえば、昔の日本の会社とといえば、一旦会社に入ったら退職まで同じ会社で仕事するのは普通なので、会社のために頑張ろうと思っていた。あとは年金の問題を考えたら、辞めたくなくなる。台湾では大きい会社が少なく、小さな会社が多い。皆がオーナーになりたくて、自分でもとても自由だと思うので、簡単に会社を辞められるようになった。全般的に考えてみて、台湾では人の目に気にしなくてもいいので、社会的なストレスが少なく気持ち楽になった。また、台湾では人脈が日本より強いので、困ったときは人脈さえあればすぐ解決できる。逆に、人脈がないと大変だ、と感じている。

⑩ Jさん(49歳) 茨城県在住 会社員

Jさんは1983年に台湾から日本へ帰化した。現在は外資系会社の日本支社で働いている。仕事の関係でよく台湾に滞在しており、滞在期間は平均1ヶ月ぐらいである。台湾以外は旅行のために香港や中国にも行ったことがある。ビジネスの関係で、Jさんは常に台湾西部の都市(台北、新竹、台中、高雄、台南)に滞在している。台湾についての印象は、日本に比べると生活環境が悪い、特に空気の質については心配している。人の道徳観が良くない。ルールを守らないので交通状況が大変である。また、治安の面も気になっている。しかし、生活の利便さから考えれば、台湾のほうがいいと思う。台湾では家を持っているが、台湾で滞在している間は外食が多かった。台湾食は種類が多くて、味も日本食より豊富であるという。しかし、屋台の衛生は気になる。台湾は空気が悪くて、外に出かけることが少ないので、家で本を読むことが主で、たまに車で移動して登山に行っている。人との交流については、台湾人はストレートで人付き合いが良く、他人への思いやりがあるので、日本人との交流より容易いと思う。日本は生活の質はいいが、台湾の生活は自由自在だと思う。社会状況については、台湾の経済状況は良く、国民はまじめに仕事に取り組んでいる。また、台湾は日本より家庭関係を重視しており、休日は家族との共同活動が多く、地域の自主的な活動も多い。一方、日本はパチンコや競馬などに夢中になっている人が多く、家族との交流機会が少ない。地域の活動もボランティアが殆どである。台湾の生活についてはまあまあ満足していたので、退職したらまた奥さんと一緒に台湾で生活しようと思っている。台湾の環境、特に空気の質を改善して欲しい。しかし、改善されなかった場合は保険金を高くしてから行くつもり。台湾の生活を始める前

に、経済能力の確保(現地での生活費、健康保険など)や当地の悪い習慣に影響されないよう注意することが必要である。滞在経験はJさん自身にも影響がある。環境を変えることによって、自分の考え方や視野も変わり、より客観的に物事を判断することができる。また、人に接する考え方や方法も変わり、様々な変化に対応するための精神的な柔軟性も高くなった。

⑪ Kさん(46歳) 名古屋市在住 会社員

今まで台湾には20回ほど行ったことがある。最長は二週間ぐらい。台湾以外では、イギリスに5年間の長期滞在、他に上海に短期滞在中の経験がある。台湾は、バイクが多くて交通のルールが守られていない。上海はちょっと違うが、台湾人の性格は日本人に似ているので、暮らしやすい。現在は台湾にも日本料理店がたくさんあるが、台湾にいる間は殆ど中華料理を食べていた。台湾にいる間は仕事関係者との交流が中心で、それ以外の人との交流が少なかった。また、週末を利用して、各地を観光した。台湾と日本の生活を比べてみると、日本は流行(ファッション、音楽など)が一步早く、台湾では一生懸命に日本あるいはアメリカの事を取り入れているように感じる。日本は自分の生まれた国なので、非常に安心感がある。日本以外の国では英語が一番普及しているので、外国に滞在する前にはもっと英語の勉強をしたいと思う。知らない国での生活を体験したことで、自分の精神力がより強くなっていると思う。経済的要因さえクリアできれば、また外国に滞在しようと思っている。しかし、家族は海外に行きたいという興味があまりないので、長期間の滞在は難しいと思う。

⑫ Lさん(51歳) 台湾台東市在住 宣教師

1998年9月に教会の仕事の関係で、奥さんと一緒に大阪から台湾にきた。最初の一年目は台中で中国語を勉強し、現在は台東と花蓮の教会で仕事をしている。教会の仕事以外に学校で学生の心理的なケアもしている。台東は鉄道があるが、新しい駅からダウンタウンまでは遠いので、車がないとちょっと不便だと思う。また、ダウンタウンには駐車場が少ないので、パーキングが不便である。自然環境が良く、原住民の人は環境の維持を重視しているが、道徳の悪い人も多い。現在、台湾では子どもを保護するため、教育の場面では体罰が禁止されており、生徒の質が悪くなっていることが気になる。ちなみに、台湾では、保護者たちが子どもの成績しか重視していないので、子どもの体力低下が問題になっている。人情を重視しており、困ったときは互いに助け合う。病院が多いので便利、夜間も簡単に診てもらえる。しかし、バリアフリーが完備されていないので、障害者に対して

の配慮がまだ足りない。日本と同じく貧富の差が大きく、社会保障は日本より悪い。特に金持ちの税金が少ない。今まで多くの人と交流してきたが、台湾人は情熱的で日本人よりも友達になりやすい。食事は自分で作る人が多いが、和食も中華食も摂っている。現在はよくランニング、自転車などの運動をしている。しかし、環境、家族、相手などの変化で以前よくやっていた野球やサッカーをする機会が減少している。今は野球をする機会を求めて、休みの期間を利用して学校の生徒と一緒にしたり、教会の子どもたちに教えたりしている。休みの日はよく花蓮や台東で観光や旅行をしている。日本は色んな面で完璧な成果を求めているので、ストレスが溜まりやすい。また、日本人とは一旦喧嘩したら、ずっとあとまで覚えているので、元通りに付き合うことが難しい。台湾では、そういう社会的なストレスが少なく、人間関係も日本ほど複雑ではないので、気持ちがとても楽である。今後も、教会が許可する限り、ずっと台東に住みたいと思っている。

IV 考察

1、調査対象者の類型

今回の調査対象者は、台湾滞在の仕方や基本属性により、リタイヤした方々(①②③)、台湾在住者(⑧⑨⑩)、ビジネス関係者(④⑤⑥⑦⑩⑪)の三つのグループに分けることができる。厳密な定義からすれば、ロングステイヤーは台湾在住者の三名に限定されようが、リタイヤした方々及びビジネス関係者の方々も台湾を訪問している回数がかなり多いことから、ロングステイヤーに準ずる対象者とし、考察の対象に加えた。

2、台湾在住者とリタイヤ・ビジネス関係者との比較

ロングステイヤーの定義からすれば、調査対象者のうち、ロングステイヤーと呼べるのは、台湾在住者に限られる。ここでは、台湾在住の3人の人々を、ロングステイヤーと仮に規定し、それ以外の人々との台湾認識、あるいはライフスタイル、人生観などへの影響といった点での違いについてみておきたい。

リタイヤおよびビジネス関係者は、滞在期間が短いこと、滞在地域も都市部が多いこと、交流相手も知人、友人、あるいは仕事関係者などに限られていることなど、本来のロングステイヤーとは違って、全体として、台湾理解もやや表面的といわざるを得ない。同時に、その後の人生観に大きな影響を与えるといったことも、あまりない。ただ、調査対象者は、いずれも台湾訪問の回数が多く、たとえ知人や仕事相手などとの交流に限られているにせよ、1、2回の旅行者とは明らかに異なる台湾認識を持っていることも事実である。それは、多くの体験に

よるものともいえよう。さらに、彼らは、日本での生活にも充実感を持っている。客観的に日本と台湾を比較できる力量ももっている。そうした人々の台湾についての認識と意見は多くの点で参考になる。

さて、彼らに比べて、台湾在住者の場合はどうであろうか。彼らは、長く住んでいるが故に、台湾認識も表面的な理解とは異なり、生活者の視点から台湾を広く、深く捉えている。特に、台湾人の国民性について、リタイヤおよびビジネス関係者と違って、良い点だけでなく悪い点も挙げている。さらに、日本に生活拠点を置いているリタイヤおよびビジネス関係者とは異なり、従前の日本での生活と比較しながら、どのように生活を楽しむか、現地の人とどう関わるか、どのような貢献ができるか、など、いかに生きるか、について真剣に考えている姿が浮かび上がってくる。特に、日本との比較において、人間関係において、ストレスが少なく、生活がしやすいことを挙げていることが印象的である。台湾在住者の3人も、台湾東部の人口の少ない地方に住んでいることも関係していると思われる。

3、滞在者にとってのロングステイの効果

ロングステイの効果は以下の三点である。

(1) ライフスタイルや人生観を考え直す効果

台湾人の生活を見たり体験したあとは、今までの生活を反省しなければならないと考えるようになっている。

(2) 自己実現に関する効果

在住者たちは現地の社会状況に関心をもち、外国人としてではなく、現地社会の一員として貢献しようとしている。異国で自分の活躍できる場を発見し、自分の技能、知識を発揮するという自己実現に繋がるであろう。

(3) 日常生活で溜まった精神的ストレスを解消するリフレッシュ効果

台湾ではマイペースな生活ができて、しばらく日本の忙しい生活から離れ、自分のやりたいことをする余裕が出てきているという回答があった。在住者の方からも、人間関係の煩わしさや日本の社会的なストレスから解放されたという回答があった。ゴルフなどを楽しんでいる人もいる。温泉もある。台湾には、身体面も含めてリフレッシュできる環境が整いつつある。スポーツ、レジャーへの関心も高まっている。

4、ロングステイを実行する要因

(1) ロングステイ先の滞在経験もしくは渡航経験があること。

今後も台湾に滞在したいと思っている対象者は、台湾への渡航回数が多く、台湾の社会事情や生活環境に対しての一定の了解、覚悟も持っている。滞在国に対しての

了解程度は対象者の意識に関係している。以前、アメリカに滞在したことのある会社員(⑤)は、当地の気候や環境が気に入り、将来は同じところに滞在しようと思っ
ている。つまり、滞在先の滞在もしくは渡航経験を持つことはロングステイの実行にプラスの効果をもたらすと考えられる。しかし、滞在国についての悪い印象が多い場合は、阻害要因になる可能性もあると考えられる。

(2) 現地の知り合いがいて交流経験があること。

多くの対象者は、台湾人は日本人に対してフレンドリーで親日的という印象を持っている。大勢の現地友人ができ、現に仲良く、今でも交流し続けている。現地の人々との交流は生活を豊かにし、生活満足度をあげる効果があると考えられる。日本人と交流する場合はさまざまなことを配慮しなければならず、精神的なストレスが溜まり易くて、真の友人になりにくい。そういう現状の中で、現地の人々との交流があることが一つの実行要因になっていると考えられる。

(3) 自分の活躍できる場があること。

在住者の方は、長年にわたって台湾に住んでおり、現地で様々な活動をし、すでに自分の活躍できる場を見つけている。日本語を教えたり、野球を教えたりして自分の知識や技術を用いて現地社会に貢献している。現地社会で自分の役割を果たすことによって、対象者自身の自己実現に繋がっている。自己実現ができ、現地社会に愛着を感じることで、より長い滞在を希望することが明白である。

5、ロングステイを阻害する要因について

今回の調査からは、明確な阻害要因は把握できなかった。小さな問題点も指摘されているが、全体として、台湾の生活にはおおむね満足している人が多い。

阻害要因をいって挙げるとすれば、経済的な問題、家族の問題がある。

おわりに

今回の研究では、対象者の年齢、性別、職業、滞在類型とロングステイにおける活動内容、滞在スタイルとの関係についての検討を試みた。結果的に、対象者の年齢、性別、職業の違いと活動内容、滞在スタイルとの密接な関連は認められなかった。しかし、滞在する動機(原因)が、活動内容、滞在スタイルに大きく影響することは明らかとなった。

また、高齢者のロングステイとライフスタイルの関連性については、調査対象者を探しだすことが困難を極め、結果的に対象者が限定されたことにより、はっきりとは

解明できなかった。さらに、健康問題も十分な検討ができなかった。しかし、ロングステイを実施することによって、対象者の考え方に一定の変化が認められるということは明らかにできたように思われる。

今後は、調査対象者を厳選すること、さらには対象者数を増やすこと(アンケート調査の実施も可能)、等が必要であろう。残された課題である。

参考文献・資料

1. 柿木昇治・山田富美雄『シニアライフをどうとらえるか』、1999年、北大路書房。
2. 河島修『変貌するシルバー・ライフ 1920年代—1990年代』、1989年、竹内書店新社。
3. 瀬沼克彰『現代余暇の構図—地域社会と文化2』、1983年、大明堂。
4. ロングステイ財団法人『ロングステイ調査統計2006』、2006年。
5. ロングステイ財団法人『平成17年度サービス産業構造改革推進調査(海外滞在型余暇に関わる調査研究)調査報告書』、2006年。
6. 松原治朗『余暇社会学』、1977年、垣内出版。
7. 瀬沼克彰『余暇の社会学』、1977年、文和書房。
8. 立道和子『年金・月21万円の海外二人暮らし』、2000年、文春ネスコ。
9. (財)ロングステイ財団『極楽ロングステイガイド』、2004年、講談社。
10. 山内悠『はじめての海外ロングステイ』、1997年、明日香出版社。
11. (財)ロングステイ財団『半分海外ぜいたく暮らし』、2004年、詳伝社。
12. 立道和子『海外で暮らすⅢ長期滞在最新情報』、2001年、ビジネス社。
13. 三橋昭『フィレンツェで暮らしてみれば—年金夫婦のイタリア生活』、1998年、マガジンハウス。
14. 武富雅子「チェンマイ・ロングステイという選択—第二の人生を豊かに暮らす」、2006年、京都精華大学。
15. 池邊善文「ロングステイの社会的機能についての考察—タイ・バンコクにおける事例から—」、2003年、九州大学。
16. 石井和平「日本人のIRM行動—退職者移住とロングステイ・ビジネスの勃興」、2007年、札幌学院大学。
17. 社会保険庁「平成17年度社会保険事業の概況」、2007年、社会保険庁。